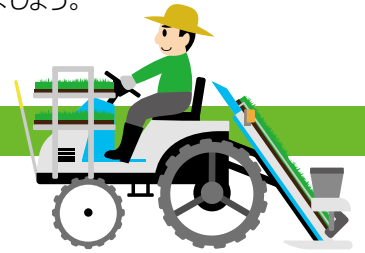


代かきは丁寧に、畦の管理はしっかりと。

- 田面は均平になるように耕起・代かきは丁寧に行いましょう。
- 漏水しやすい場合は、畦波板やシートで補強しましょう。

適期に田植えを行いましょう。

- 田植えでは、必要な株数を確保するために初期成育を安定させ、分けつしやすい条件をつくるのが大切です。低温や強風下、また降霜の恐れがあるうちは植え付けを行わないようにし、適期に田植えを行えるようにしましょう。
- 田植え時には栽植密度や植付本数(1株当たり3~4本)、植付深さ(3cm程度)を目安に植え付けし、太くしっかりとした稲を作りましょう。



除草剤は適期に散布しましょう。

- 雑草葉齢に合わせて適期に散布しましょう。
- 除草剤がうまく広がるよう水をたっぷり入れましょう。(水深5~7cm程度)
- 表層剥離やアオミドロが発生した場合は、雨上がりなど藻が落ち着いてから散布しましょう。
- 散布後7日間は落水・かけ流しをせず、入水もできる限り控えましょう。また、漏水等で田面が露出すると、処理層の分解が早まり抑草期間が短くなりますので、注意しましょう。

田植え後の水管理は。

- 苗が活着するまでは、苗の葉先が見えるくらいの深水を維持して苗を保護しましょう。また、新しい葉が展開し活着し始めたら、2~3cm程度の浅水管理にして水温や地温の上昇を図り分けつを促進させ茎数の確保に努めましょう。

STOP! 農業濁水

田植えまでの4ステップ

①均平作業

- ていねいな均平化で、後の浅水代かきや水管理をしやすくする
- 除草剤の効果もアップ

②漏水防止

- 畦周りの点検、補修
- 排水口には止水板を設置

③適量入水で浅水代かき

- 地域で計画的に水管理
- 水を入れすぎず、土が7~8割見える程度に
- 浮いたごみは除去

田植え直前に落水しない

④落水なしの移植

- やや深くても、回転マーカのラインは見えます

STOP! 農業系廃プラスチック

- ①プラごみ流出防止**
- 肥料袋、あぜ波板・シート等は風で飛ばないように
 - 一般プラごみ(レジ袋、ペットボトル等)も併せて注意
-
- ②被膜殻の流出防止**
- 緩効性肥料の被膜殻がほ場から流れないように
 - 代かきや田植え前に強制落水しない水管理
 - 本田を確認し、移植前を中心に網ですくう等、被膜殻の回収に努めましょう

環境保全型農業直接支払交付金の「緩効性肥料の利用および長期中干し」取組の要件です。



滋賀県は

見直そう! 農業機械作業の安全対策

4月1日(金)~5月31日(火)が春の農作業安全運動月間です。